

らざるものを、人のみなどで斯くは生死の巷に流轉せざるべからざるか。憶へば傷ましきの極なる哉。
されど見ずや、朝に、輝き渡る旭日に向ひて、啞啞と飛び行く鳥の群を。夕に、月を宿せる白露を擔へる
萩姫を。汝何が故に爾く世を果敢なむぞ、善く食ひ善く飲む、これ人生の事實に非ずやと。——斯くて我が
魂は慰められ、黙して止みにき。



歩むべき道

四 寬 涙 草

人生それは悲惨な人間苦の事實である。

苦しみの過去の人間生活から未來への苦しみの人間生活へと進む旅程ではあるまいか、生きようと願ふ……
それには悲惨な人類相闘の苦しみの劇が畫出されずにはをかねない。弱肉強食の事實が畫かれてゐるのは人
間ばかりではない、野に咲く名も知らない可憐な草花にも、空飛ぶ鳥にも生を欲しながらも悲愴な生に對す
る事實を認めすには置かれない、まして人生には必然の事である。

生きることを欲しつゝもズル／＼と時の力に引きつられて、暗黒へと導かれ行くはかない運命の持主が人
生ではあるまいか、生きることを願ひつゝもロソクの火のいつの間にか燃え盡して消え行くごとく、……し
かし風に揺がれつゝも消えまいともがきながら燃え續ける、そして彼自身の身を燃やし乍ら餘燼かすかにな
る微光までも消えまいともがき終には暗黒の世界を造る、丁度人生もロソクの火のやうに終には消え失せ

て終はなくてはならないのに、生に對する愛着がなせに斯くも一切對一切争闘の相を現出しながら生に執着しつゝあるのか、たれしも誘はれなくてはならない死の魔暗闇の深淵如何にせばとて斷滅の運命の不可抗力に支配されるのだ、だからと云ふて一部の人々のやうに享樂主義利邦主義に本能の衝動に任かせて生きて行くのが本當だらうか、生きて行く以上自身を生かすことが大切だ自分さへ生きれば人なんか少しもかまふことがない強く行け……多殺一生して直進すべきである云ふ已愛主義が社會進化の眞理であらうか、否それはあまりに怖ろしい惡魔の生き方である、人生の旅程は靈魂に求めて行く純なものではなくてはならない。

たれしも觀られない死の所有者である以上死の運命は否定し得られない事實である、過去の悔恨現在の努力未來の希望其の理論を語るよりも、現在の生の事實に刹那々々の生に如何に清く美はしく輝かしく生きていくべきであるか、充實した靈魂の抱持者そのものではあるまいか、眞暗であつた過去と光明であるべき未來は現在とといふ苦惱の經驗世界の連續に外ならぬものとすれば、三世貫通の人生はあまりに悲惨である何處にか歡喜の涙に満てる淨化の樂園があるべきである。

暗黒と争闘から去つて無爲の濁衣を脱して眞實の生命の奥堂に達した人こそ聖者である、人類の美しい犠牲者開拓者となつて煩惱の世界を一掃した聖者の道こそ我々の生く可き道である、人間の本然の姿は光りの體でなくてはならない光明に接する時に照されるのではなくて、光明それ自身でなくてはならない、と聖日蓮は教へてくれた。日蓮は泣かぬとも涙ひまなし……「一切衆生の異の苦を受くるは日蓮一人の苦なり」……斯ふした温い聖者の慈悲に浴しつゝある私はどうかして光りの體になり得ない、此の感激の涙もて自身に深く努力するのが歩むべき道であると思ふ。

聖訓

正像二千年の大王よりも、後世を思はん人々は、末法の今の民にて、そあるべけれ。(撰時鈔)

國は法に依つて昌へ法は人に因つて而して貴し。(立正安國論)